

靈氣満山
高尾山



人々の
祈りが紡ぐ

桑都物語

そうとものがたり



	01 八王子城跡		02 八王子城跡 御主殿出土品		03 八王子神社
	04 滝山城跡		05 北条氏照 および家臣墓		06 小仏関跡
	07 高尾山		08 高尾山薬王院 文書 (北条氏照発給文書)		09 高尾山薬王院 の文化財
	10 高尾山のスギ		11 御前立御本尊 飯縄大権現像		12 高尾山薬王院 浄心門
	13 養蚕守護札	“桑都”八王子を彩る 30の 構成文化財 「桑都物語」を語る上で欠かすことのできない、 国史跡・八王子城跡をはじめとする北条氏照 公ゆかりの史跡等（6件）、高尾山及び薬王院 の信仰に関する文化財（11件）、桑都の歴史 の中で育まれた伝統文化（13件）、合計30件 の有形・無形の文化財です。			
	15 火渡り祭				
	17 高尾山の ムササビ				
	19 多摩織		20 絹の道 (浜街道)		21 八木下 要右衛門屋敷跡 (絹の道資料館)
	22 小泉家屋敷		23 八王子の獅子舞		24 木遣
	25 八王子車人形 および 説経浄瑠璃		26 上の祭り・ 下の祭り (八王子まつり)		27 上の祭り・ 下の祭りの 神輿・山車
	28 八王子芸妓		29 桑都の銘酒		30 諏訪神社（鎌水） の文化財

日本遺産「桑都物語」推進協議会

事務局：東京都八王子市元本郷町3-24-1（八王子市役所内）
TEL：042-620-7434 / FAX：042-626-8554 E-mail：japan-heritage-soto@city.hachioji.tokyo.jp

写真提供：TBSスパークル

「靈氣満山 高尾山」
ストーリーの詳細はこちら



靈氣に満ちた高尾山に抱かれ
行き交う人々が紡いできた「桑都」八王子
色鮮やかな歴史が、数多の営みを織りなしてゆく

桑都物語

絹産業を基盤として発展し、桑都」と称された八王子。桑都の物語は、戦国時代に関東を治めた北条氏の名将・北条氏照が八王子に居城を築いたことから始まり、霊山・高尾山への人々の祈りが、この地に育まれた豊かな文化を未来へと紡いでいく物語です。

北条氏照

氏照が新たな城を築いた地は、八王子の名の由来となったといわれる**八王子権現**（はちおうじごんげん）を祀る聖地でした。向かい合う高尾山を天然の要害とみため、甲州から八王子への進路となる峠道を押さえることができる軍事的要衝です。峠道を監視するための「富士関」が、江戸時代に甲州道中で最も堅固な関所だといわれた**小仏関**（こぼとけのせき）として引き継がれたことから、この地がいかに重要な場所であったかということがわかります。氏照は、戦の神として信仰された**飯縄大権現**（いづなだいごんげん）を本尊とする、「**薬王院**」のある高尾山を篤く庇護しました。江戸時代に書かれた『桑都日記（そうとにっき）』には、氏照が八王子城下の景勝地を選び、その情景を詠んだとされる「**八王子八景**」が記されています。

〔八王子八景〕
八王子城の秋月



城山から見た秋の月が、領地一帯を照らす様子が詠まれています。軍事と信仰の両面で重要な場所であったこの地に城を築き、領地を豊かに治めようとする自分の姿を、輝く月に重ねたのかもしれませんが。

桑都

氏照は城下町の整備にも力を入れ、「**八王子織物**」の起源といわれる、織物の取引が行われた滝山城下の市や城下町の名が、八王子城下に引き継がれました。八王子城が落城したのち、江戸幕府が江戸西方の防衛や交通の要衝として整備した**八王子宿**にも、氏照が築いた城下町や市が移されました。その後、八王子宿は絹産業を基盤に、甲州道中最大の宿場町へと発展します。大量の生糸が周辺の産地から集められ、幕末から明治期にかけて、輸出のために「**絹の道**（きぬのみち）」を通して横浜へ出荷されました。絹産業の発展は「**多摩織**（たまおり）」という伝統工芸品を生み出すこととなり、機織（はたおり）とともに培われてきたものづくりの技術や職人たちの思いは、現代にも脈々と受け継がれ、様々な産業に新たな息吹をもたらしています。

〔八王子八景〕
桑都の晴嵐（せいらん）



桑畑が広がり養蚕が盛んに行われ、市が賑わっている様子が詠まれています。“桑都”として広く知られ、織物のまちとして発展した八王子の姿は、氏照が取り組んだまちづくりの萌芽が実を結んだものといえます。

MT.TAKAO

高尾山

江戸時代、絹産業は高尾山薬王院への**信仰**と深く結びついていきます。養蚕農家は、大切な蚕を鼠から守るために「**蚕守**」の**護符**を薬王院に求め、生糸や織物を扱った絹商人は、周辺の養蚕農家や機屋、江戸の間屋に薬王院の護摩札の配札を取次ぎ、高尾山の信仰圏を拡大させる一翼を担いました。人々は薬王院にご利益を求め、諸願成就の返礼として**杉の苗木**を奉納してきました。山内の数多くの石碑や、参道に並ぶ奉納板には、高尾山信仰の大きな特色であるこの「**杉苗奉納**」が、絹産業と関係の深い人々によって行われ続けていることが記されています。山内を歩くと、絹産業の発展により広まった高尾山への信仰が今も連綿と受け継がれ、信仰とともに**高尾山の自然**が守られていることを実感することができます。

〔八王子八景〕
高尾の翠靄（すいあい）



山内に立ち込める霧（もや）が「みどり色のもや（翠靄）」と表現され、自然の豊かさと美しさ、そして厳かな霊山の空気感が詠まれています。氏照が愛でた、靈氣に満ち緑豊かな「翠靄の景」は、昔も今も変わらぬ高尾山の大きな魅力です。

未来へと続く「桑都物語」

北条氏照は、**横笛の名手**だったとの逸話が残し、**獅子舞**を好んだとも伝えられています。氏照が築城した**八王子城**の跡から見つかった**庭園の遺構**や数多くの舶来の品からは、戦国武将の、魅力的な文化的・芸術的な素養を感じることができます。

獅子舞や、八王子織物から生まれた伝統的工芸品「多摩織」、粋な町人が競い合ってきた絢爛豪華な**山車**、農村の娯楽から発展した**八王子車人形**、**米遣**、**八王子芸妓**など、豊かな文化が桑都の発展の中で育まれてきました。これら桑都の伝統文化は、高尾山の年中行事で欠かすことのできないものになっています。今日、世界中の人々を魅了している高尾山は、氏照が武運を祈り、桑都の養蚕農家が**養蚕守護**を祈り、現代も多くの人が諸願成就を祈る、「**祈りのお山**」です。参道にある**淨心門**には「**靈氣満山**」の言葉が掲げられ、法螺貝の音が響く山内には「靈氣＝生命（いのち）の力」が満ち満ちています。

氏照が築いた八王子城から始まる「**桑都物語**」は、祈りのお山・高尾山とともに、戦国時代から現代、そして未来へと紡ぎ続けられています。

